

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 1 月 27 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200700		
法人名	(有) 藤山商事		
事業所名	グループホーム縮景園		
所在地	〒734-0014 広島市中区上鞆町5-17 (電話) 082-511-1121		
自己評価作成日	平成28年1月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200700-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成28年1月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

広島市内中心部に位置していて近くのデパート（三越・福屋・そごう）に散歩がてら行く事が出来、目の前には名勝縮景園とその隣には美術館がありとても恵まれた場所に当施設はあります。毎日の生活がゆっくり、ゆったり、優雅にその人々のペースで生活ができる様に支援し環境づくりに職員一同頑張っております。母体でありますワカサリハビリ病院より週3回の院長と看護師の往診を行い又、入居者様の高齢に伴い健康管理も病院との連携も強化し日々努めております。入居者様とご家族様が安心して信頼できる施設の体勢作りを一生懸命行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム縮景園は、ビルやマンション・縮景園・県立美術館・中学校が近くにあり、散歩には好適な場所に位置している。また、少し足を延ばすと繁華街に行く事ができ、デパートや映画館・ホームセンター・飲食店があり日常生活にはとても良い立地に位置している。利用者がいつまでも自分らしく生活するために、職員は利用者の持っている特技、優れた能力が何であるかを把握する事に努め、利用者それぞれが自分の特技を発揮して達成感を持ちながら生活し続ける様支援している。利用者はかかりつけ医（法人本部の病院）の定期往診により、利用者の日常の健康管理に努めると共に、利用者毎の排泄パターンを把握して適切な支援を行っている。施設は利用者最優先の考えで、入居頂いたら本人が十分施設に馴染まれるまで、次の利用者の入居は控えていて、本人本位の意思を大切にしている。

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を元に常に毎日を元気に安心して過ごして頂ける様、管理者・職員一同実践している。	事業所理念「明日のことを思いわずらう事よりも、今日一日を、輝いて」を玄関に掲示し職員一同で共有し、朝の申し送り時に全員で唱和している。職員は個々の利用者の生活歴を把握し意向や経験、できる力を生活場面に活かす取り組みに努めている。利用者主体の関わりを基本とし、ケアを振返る努力もしている	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の包括支援センター、民生員、入居者様のキーパーソンに出席して頂き2ヶ月に1回の報告や入所者様の日々の生活のあり方についてお話をさせて頂き、意見交換をさせて頂いてサービス向上にいかしている。	町内会に加入し地域と深く交流すべく民生委員・地域包括支援センター等の協力を得ながら努力されている。施設前の道路の清掃を行い近隣の住民・事業所の方と挨拶を交わし交流している。町内会の夏祭り・運動会等に参加したい希望があるが交流が一部取れず実現していない。	今年3月からの予定で包括支援センター・民生委員の協力の下、認知症カフェの開設を計画しており、より地域の方との交流を密にされる事を期待します。近隣の中学校の行事や町内会の夏祭り等に参加出来るようにさらなる努力をされる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	少しでも気持ち良い生活をして頂ける様毎日道路清掃し地域に貢献できるように心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の包括支援センター、民生員、入居者様のキーパーソンに出席して頂き2ヶ月に1回の報告や入所者様の日々の生活のあり方についてお話をさせて頂き、意見交換をさせて頂いてサービス向上にいかしている。	運営推進会議は2か月に1回開催され、地域包括支援センター・民生委員・利用者家族・管理者・介護職員が参加している。会議では事業所の状況報告や行事報告・事故報告をしている他、感染症対策等事業所の取り組みを報告し意見交換をしたり、話し合い、結果等を運営に反映させている。	運営推進会議は外部の多くの人々の目を通して事業所の取り組みや課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会なので、地域の多職種(中学校の先生・警察官・住職・町内会長・スーパーの店長等)の方に参加して頂けるように運営推進会議の案内を配布され、依頼されることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市とは日頃より連絡を密に取らせていただき分からない事は教えていただきながらケアサービスの取組み等をしている。	困ったことや疑問に思う事は、電話で直接問い合わせ助言を受けている。運営推進会議に地域包括支援センター職員は参加され施設の状況も把握され協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束0(ゼロ)を目標に職員一同話し合いをしながらケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて、内部研修・外部研修・伝達研修を行い、全職員が身体拘束における弊害を理解し身体拘束をしないケアに努めている。利用者の行動・気配を察知する努力をし、原因を探り不安や混乱を取り除くケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と並び、虐待に関しても常に職員間で意識統一し、言葉遣いをはじめ入浴時のボディチェックをし情報を職員間で交換し注意している。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が成年後制度についての研修をし入居者様に役立てる様職員と話し合いの場(ユニット会議)をもってスキルアップするようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については十分に説明を行い、理解・納得していただいた上で同意の署名・捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族や入居者様からいつでも要望や意見をはっきりと言える様に雰囲気作りを心掛けそれらを運営に反映させるようにしている。	家族の代表等運営推進会議に出席し意見や要望を出している。ご家族やご利用者との日頃の会話の中・電話での連絡の中で、どんな小さな要望や意見でも受け止め運営に反映するようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は管理者がまとめた職員の意見をしっかり聞いて運営し反映させている。	管理者は常に話し易い環境作りに努めながら、日常的に職員の話聞いている他、月1回のユニット会議時に意見要望・提案等を出せる機会を設け、出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は管理者がまとめた職員の要望に常に耳を傾け、できるだけ働きやすい様に又、向上心が持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者と管理者は職員一人一人の実務のやり方や今までの経験を元にどれだけのケアができるのかしっかりと把握し何度も施設内研修をするように心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	代表者は管理者職員に外部研修などで同業者と交流し情報ネットワークを作ることにより、よりよいサービスをし質の向上をさせる様努力している。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	職員がいつも声掛けをする事により安堵されコミュニケーション作りをし信頼関係を作っていくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の方が来られるときはなるべく管理者から声掛けをさせて頂き不安な事・困っている事など何でも相談できる様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人とご家族がどんな支援を望まれているのか、できるだけ望まれている様な支援ができる様に対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	疑似家族ではあるが毎日元気で楽しくいつも笑いのある生活をしていただけるように心掛けながら支援し努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人、家族の思いを大切にしながら支援をし信頼を得るようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでの馴染みの方が来られた際にはゆっくり話をしていただき、関係が途切れないように支援に努めている。	利用者の友人や教え子が来訪している他、利用者は家族の協力を得て百貨店・墓参りや馴染みの美容院へ出かけ、馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	新しい入居者様が入居された時は職員が孤独になられる事のない様にたえず声掛けをし気配りをするようにしており職員が間に入って話をする様にしトラブルのない様にこやかに生活できる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も気軽に相談していただける関係づくりをしており相談にのれる様努めている。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の声掛けにて思いや要望・意向などを聞くよう心掛けている。この伝達が困難な方も職員同士で話し合いながら、できるだけ本人本位に検討する。	職員はアセスメントシートを活用して、利用者の生活歴や思いを把握すると共に、さりげなく話しかけて希望や悩みを聞き意向に沿った支援に努めている。思いを表せない利用者には、話し方の表情やしぐさなどから、思いをくみ取るように努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでどの様に過ごされて来られたのか情報をできる限り支援する職員全員が把握するよう会議で検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の日々の生活の中で問題があるようならば職員全体で話し合いをし現状問題を解決するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員の担当を決めケアマネージャーの力を借りながら職員の意見等を踏まえつつ介護計画書を作成し4ヶ月に1回見直しをしている。	職員全員が利用者のお一人おひとりに担当を持っていてケース記録に基づき、モニタリング結果等を踏まえユニット会議でケアマネージャーも参加し検討し、3～4ヶ月毎に見直しを行い介護計画を作成し、家族等の来訪時に説明し同意を得ている。利用者に変化が生じた場合は現状に即した介護計画に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケース記録で入居者様個々の情報を細かく把握し職員間で情報も交換しより実践や介護計画の見直しの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時その時の状況を把握しながら職員が集まり、皆で相談・検討し、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握し、入所者様が暮らしを楽しむことができる様に支援したい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	母体であるワカサ・リハビリ病院より院長・看護師が週3回のペースで往診がある。本人・家族希望の医療機関への受診は家族対応になっているが情報提供はしっかり行い、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者の希望に沿い、かかりつけ医の継続受診と、法人本部の病院の週3回の定期往診による日常の健康管理と、受診結果の共有を行っている。眼科と歯科は、家族が対応して受診している。投薬は職員が管理・支援している。	

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	少しでもいつもと違う事があれば看護師に報告をし、日常生活を支援し医師と連携して速やかな対応ができる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に入院された方には面会に行き病院関係者と情報を共有し入居者様も不安のない安心した入院生活をし、できるだけ早期に退院できる様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合は医師より説明がありできるだけご家族の希望に沿った支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期を迎えた時、本人や家族の意向・希望を踏まえ、医師・看護師・職員と連携を取りながら、法人本体の病院へ移動し終末期の支援に取り組んでいる。	看取りを行う場合に備えて終末期や看取りに関する内部研修を実施し、職員で共有する事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルを作成し施設内研修をし初期対応等に役立て実践に職員が全員身に付ける事ができるようにする。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回火災避難訓練を行っている。入居者様の協力を得て訓練しているが地域の協力体制を築いていける様努めていく。	年間計画を立て災害の種類・想定時間を変え年2回の避難訓練を事業所独自(火災報知器設備業者指導の下)の訓練を実施している。消火器等の使い方の訓練を実施している。	年間想定避難訓練が実施されていないので、今後消防署立会いのもと実施されることを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣いや会話、言葉がけには十分気を遣う様にしており、「親しき仲にも礼儀あり」をモットーにしており、個人情報の取り扱いについて同意書を交わしている。	職員は利用者お一人おひとりの人格を尊重し、特に排泄や入浴支援では誇りやプライバシーを損ねないように、目立たずさりげない言葉がけをすると共に、声の大きさやトーンに配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	なかなか自己決定できない人にはしっかり傾聴し希望を聞いたりして自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合で業務優先になる事のない様に日々の生活スタイルを崩さず、一人一人のペースに合わせる声掛けを行いながら支援している。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族の思いとご本人の思いが合った服装と身だしなみをして頂くよう声掛けをし支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	家族の要望がある入居者様には盛り付けや片づけをしてもらう様に声掛けをし職員が支援している。	外食業者からレトルト食品を購入し温めて盛り付け提供している。利用者は能力に応じて食器洗いや下膳・食器拭きなどの役割分担している。時には利用者も参加し職員と一緒にパン焼き・お好み焼き・たこ焼き・ホットケーキ作りを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	職員は入居者様に合わせた1日の水分摂取量を計算しながら確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人一人に合った口腔ケアを話し合い、毎食後実践するように声掛けをし支援を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	夜間オムツの方も日中は紙パンツを使用して頂きトイレ誘導をし排泄の気持ち良さが分かるようにしっかり支援を行っています。	排泄チェック表を活用し利用者お一人おひとりの排泄パターンを把握し、案内する時間を少し変えたり、声掛けの量を増やしたりして、夜間オムツの使用の方でも屋間の時間帯はできるだけトイレに座って頂き、トイレでの排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘をされる入居者様の一覧を作成し排便コントロールをして普通便がしっかり出る様医師の指示に従っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	心身とも一番リラックスできる入浴をして頂ける様にゆっくりと湯ぶねにつかりながら昔話を聞いたり世間話をしたりコミュニケーションを取りながら支援をしている。	利用者の体調や希望を考慮しながら週2回入浴を行っている。入浴を拒む利用者にはタイミングを見計らいながら入浴に誘ったり、2人体制で行ったり、時間を変えるなど無理なく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	時として眠れない時は職員が話し相手になり温かいホットミルクを飲んで頂きリラックスして頂き眠りにつける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	施設が服薬管理をしている。朝・昼・夕の服薬は日付、名前、朝昼夕をよく確かめる為大きな声で入所者様、職員双方が確認し服薬袋に職員の名前を書き誤薬の防止もしている。		

グループホーム縮景園

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割, 楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 嗜好品, 楽しみごと, 気分転換等の支援をしている。	誕生日の人がいない時には食べ物レクを実施しており分担をして楽しく皆様で楽しくいただいで楽しいひと時を楽しませている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の体調と天気と様子を見ながら戸外に出かけ散歩に行ったり、縮景園に行ったりして楽しく外出ができる様に支援している。	利用者の体調を考慮しながら天気の良い暖かい時には、近隣の公園や学校の近くに散歩に出かけ支援している。また、高層ビルの1回にあるスーパーに出かけ利用者が好きな物を買物している。法人本体での行事に参加しバイキングでの食事をしている。近隣のスパゲッティ屋へ食事に出かけたり、弁当持参で公園に出かけ、初詣には護国神社へ出かけ楽しめるように支援している。	ホテルでのケーキバイキングに出かける計画をされていますので実現される事を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	近くのスーパーに行き欲しい物を購入しご自分で支払いをされたりして楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話を掛ける支援を行い、手紙のやり取りも支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者様が集まれるリビングは一番安らげる空間であり、談話の場でもあり楽しんで頂ける場所、テーブルを拭いたり美味しいコーヒーを飲んでTVを観たりされる居心地のよい空間になるよう心掛けている。	共用空間は十分な採光が取り入れられており、職員は利用者が居心地よく過ごせるように温度・湿度調節を行っている。壁には行事の写真が飾られ、職員が持参したバラの花やオリーブの木や季節の花が活けられ穏やかに過ごせるように配慮している。共用空間の窓を全開し空気の入替えを行って感染予防も行い居心地よく過ごせるように支援している。	朝や3時のコーヒータイム時にはTVの音だけではなくクラシックや利用者の好きな音楽を聴く時間に充てられ癒しの時間委される事を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	新しく丸テーブルを窓際に設置しゆっくりと読書を楽しんだりされる場所として使用されています。居心地のよい場所になる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自分の思い出の品物を置かれて自分の居室として安らぐ様ご家族様と配置されていて大きなTVを置いて毎日居心地よく過ごされている。	居室にはベッド・洗面所・筆筒が備付けられている。利用者はテレビ・本・仏壇・書棚・人形・家族や思い出の写真・衣服等使い慣れた物を持参し、思い思いに寛ぎながら居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	毎日の生活の中で自分ができる事は自分で行い、できるだけ自立の生活ができるよう職員は支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム縮景園

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム縮景園

作成日 平成 28年 1月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	散歩や買い物になかなか思う様に行けなかった	近くの公園やスーパーに散歩しながら行くように2週間に1回位出掛ける	体調管理と、出かけられるように計画を立て、天気の良い日を選んで外出をする	12ヶ月
2	52	リビングでの過ごし方がTVを見られる事が多い	クラシックを聞いたり、演歌を聞いたり唄ったり、また、カレンダー作りなどをしてみる。	朝のコーヒータイム時はクラシックをかけ、3時のコーヒータイムは入居者に順番にリクエストの音楽をかける様にする。カレンダーを作る材料を準備する	12ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。